奄美佳南園

特別養護老人ホーム奄美佳南園・デイサービス・ホームヘルプ事業所
訪問入浴事業所・在宅介護支援センター（居宅介護支援事業）・春日デイサービスセンター

2015 年度は、介護保険法の改正の年となる。この改正は特別養護老人ホームや通所介護事業の経営にとって大変厳しい改定となる。

2015 年度の奄美地区は、のぞみ園の移転改築、春日保育園の増床等大きな事業展開が実施される年となる。このような中、奄美佳南園でも長期入院者へのアプローチ方法を検討し、入居率のアップを図り、また、お泊りデイサービスの開始等新たな取り組みを開始している。この取り組みが経営改善に繋がるよう実践していきたい。

奄美における経営基盤の構築のためには、地域のニーズをとらえ新規事業の検討・計画も必要と考えられる。特にのぞみ園を卒園した方々の障害者サービスの計画、特別養護老人ホームの増床を含め、高齢者住宅等、地域のニーズに合わせた事業展開を検討していきたいと考える。

【施設理念】

「夕暮れになっても光がある」

～ 高齢者と職員が共に生きる中で、高齢者の余生は夕映えの美しさを発揮する ～

【経営方針】

1．利用者の生きがいのある日常生活を支援する個別ケアの充実とサービスの質の向上を図る
2．安定した経営基盤を構築するとともに、 職場・職種や他施設、地域との連携を強化する
3．職員一人ひとりが自らの役割を認識し、責任を果せる職員教育に取組む

【事業・運営計画】

1．利用者の尊厳を守る
(ア)重度高齢者に対する医療介護の専門機能を発揮できる施設として、各職員のスキルを高め、終生施設としてターミナルケアも含め、利用者の尊厳を第一にケアの実践を行う
(イ)利用者が求めるニーズを探求しケアの実現を図る中で、これまで行ってきた業務全体を検証し、利用者目線での業務に大幅に改善を行う
2．利用者が安心で安全な生活を送れるケアの実践
(ア)利用者が希望に満ちた生活を送れるよう、介護職員の参画した個別ケアプランの作成を行い実践する
(イ)医療行為の多い利用者が増加する中で、介護職員の知識・技術力の向上と看護・介護の役割を明確にし、利用者が安全で安楽な生活できるケアを実践する
(ウ)画一的になりやすい、事故対策についての再評価を行い、事故発生率の低減を図る
3．奄美における事業拡大と安定した運営基盤を構築
(ア)奄美地区における聖隷の各事業所の一体的運営を視野に、管理体制の統一を図る
(イ)事業拡大に向け、就労支援事業・高齢者住宅等の検討・計画の作成を行うとともに 2015 年度からの地域支援事業を視野に、春日デイサービスセンターのサテライト化や 24 時間訪問

介護について検討し計画を立案する。また、新規事業についても検討する

(ウ)通所・入所稼働率の改善を行うため、長期入院者への退去へのアプローチ、ミドルショートの受入れ、障害者短期入所の受入れ、お泊りデイサービスを実施すると共に、在宅サービス全体の地域への広報活動の充実を図る

4．地域との連携を強化

(ア)防災時のみならず、奄美市が実施する地域見守りネットワーク作りに、在宅介護支援センターを中心として積極的に関わり、地域の高齢者の実態把握を行い、デリバリー型サービスの検討を行う

(イ)地域行事への参加を積極的に行うとともに、民生委員との連携を強化、ボランティア受入体制の充実を図り、地域との交流を活性化する

5．次世代を担う自立した職員の育成

(ア) 介護テクニカルラダーを導入し、職員の技術・知識の向上と、マネージメントの出来る職員教育体制を充実する

(イ) 係長を中心に奄美での研修体系の構築、各階層別研修を実施する

【数値指標】

	特養入所	短期入所	通所介護（佳南園）		配食サービス
			一般	(介護予防)	
利用者定員	80名	10名	20名		
利用者延べ数	28,105名	3,103名	4,514名	600名	22,265名
一日平均利用者数	76.79名	8.48名	12.40名	1.65名	61.17名
稼働率（%）	95.99%	84.78%	62.01%	8.24%	
稼動日数（延べ）	366日	366日	364日		364日
単価（1人1日当り）	10,984円	10,380円	8,200円	5,869円	648円
サービス活動収益	308,715千円	32,208千円	37,015千円	3,516千円	14,435千円
職員数（常勤換算）	60.5名		10.7名		3.8名

	在宅介護支援	ケアプランセンター		ヘルパーステーション		
		一般	(介護予防)	一般	予防	(障害)
利用者定員						
利用者延べ数		844名	469名	8,285名	255名	2,079名
一日平均利用者数				23.34名	0.7名	5.68名
稼働率（%）						
稼動日数（延べ）	366日	249日	249日	366日	366日	366日
単価（1人1日当り）		20,499円	4,145円	3,864円	3,151円	2,226円
サービス活動収益	4,812千円	15,889千円	1,944千円	25,081千円	4,273千円	8,268千円
職員数（常勤換算）	1名	3.0名		8.0名		2名

	訪問入浴		通所介護（春日）	
	一般	(障害)	一般	(介護予防)
利用者定員			15名	
利用者延べ数	626名	294名	1,600名	2,000名
一日平均利用者数	2.01名	0.94名	5.13名	6.41名
稼働率（%）			34.19%	42.74%
稼動日数（延べ）	312日	312日	312日	
単価（1人1日当り）	14,618円	12,384円	10,157円	5,426円
サービス活動収益	9,151千円	3,641千円	16,251千円	10,851千円
職員数（常勤換算）	4.7名		5.8名	

春日保育園

2015年度より「子ども・子育て支援新制度」が施行されるが、保育の中身は変わることなくこれからも進んでいかなければならない。そして、定員が90名から120名に変更するための増改築工事が9月には完成予定である。工事期間中の保育室の過ごしやすい環境の提供に努めていくとともに、定員増に向けての園児の受け入れを進めていくこととなる。

そして、発達障害の子が年々増えている現状があり、職員のスキルアップを図るとともに、のぞみ園や他の機関と連携して親子教室を開催することで早期発見、早期療育に結びつけていくことが必要である。

更に、キリスト教保育を学び、保育の質を高められるように研鑽し、奄美地区としての職員相互の連携と理解を深めていきたい。

【施設理念】

「今の時を喜びと感謝をもって生きる」

生きる力を培い、集団生活で自己発揮出来る環境づくり

【経営方針】

1．保育所保育指針及びキリスト教保育指針に基づいた保育を行う
2．定員増による環境整備を進める
3．育児・親支援を図る
4．地域との交流を図り豊かな心を育む

【事業・運営計画】

1．保育の質の向上
（ア）保育理念、施設目標を確認保育する
（イ）発達段階に合わせた個別支援を行う
（ウ）専門性を高めるための研修会に主体的に参加する
（エ）自己評価を行い、自らを振り返り研鑽する

2．地域との連携・交流
（ア）地域・小学校・中学校、高校・法人内施設との交流の場を計画的に実践する
（イ）積極的に地域交流に努める
（ウ）ボランティアの受け入れと実習生の受け入れを行う

3．食育と環境教育

（ア）食の大切さや感謝の気持ちを知らせ、野菜作りの体験を通し食に対する興味や関心を持つ

①「元気な体づくりは食」の意識づくりを啓蒙する

② 土作りの実践を行う

4．統合保育と他機関との連携

（ア）早期発見・早期療育にむけての情報交換を行う

（イ）一人ひとりのカンファレンスを行い、個々に合った関わりを行う

（ウ）親子教室の開催を実施する

5．環境整備

（ア） 定員増のための増築と改修工事による、合同保育間を部屋の割り当てなど検討し負担のない環境整備を行う

6．身体能力推進

（ア）将来の運動機能発達を目指し、運動あそびを意図的に乳幼児期の身体能力を高めるべく発達に合わせた取り組みを行う

【数値指標】

利用者数	定員	90名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
	児童入所率120%	入所数4/1現在	6名	12名	20名	22名	18名	27名	105名
		内、障がい児				1名	1名	1名	3名
		内、外国人							0名
		年間入所延人数	129名	155名	220名	264名	228名	324名	1308名
	特別保育	年間利用延人数	一時保育事業						48名
			延長保育促進事業						84名
職員数（常勤換算）			施設長	保育士	看護師	調理	助手	事務他	計
		正規職員	1名	4.0名					5.0名
		業務職員		3.0名		1.0名			4.0名
		ﾊﾟｰﾄ･ｱﾙﾊﾞｲﾄ		8.9名	0.8名	2.3名	0.8名	1.0名	13.8名
		計	1名	15.9名	0.8名	3.3名	0.8名	1.0名	22.8名

のぞみ園

2015年度は、園舎新築移転となり、児童発達支援センターとして、機能充実を図り、地域の中で具体的に発達支援、家族支援、地域支援を充実させ、更なる質の高い支援内容を展開する必要がある。

2014年度より始めた相談支援事業を効率的に充実させるスキルを向上させ、更に保育所等訪問事業を最大限に活用し、地域でも発達支援の輪が広がり、地域に根差した活動を展開する。今後発達支援を充実させるためにも、積極的な人材育成を行う。

【施設理念】

「今の時を喜びと感謝を持って生きる」

障害や発達につまずきのある子どもの発達に沿った発達支援

【経営方針】

1．児童発支援センターとしての充実

（児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業・相談支援事業・保育所等訪問事業）

2．関係機関と連携、協力

3．新たな事業展開（龍郷町・日中一時支援）

4．人材育成

【事業・運営計画】

1．児童発達支援

（ア）個別支援計画の策定のスキルアップを図る

（イ）個別支援計画に基づいた療育を行い、評価する

2．放課後等デイサービス

（ア）休業日以外（月～金曜日）の活動を開始する

（イ）余暇活動の充実を図る

（ウ）個別支援計画に基づいた療育を行い、評価する

3．相談支援事業

（ア）計画相談、サービス利用計画およびモニタリングを行う為のスキームを具体化する

（イ）他事業所との連携、情報共有を行う

4．保育所等訪問事業

（ア）保育所・幼稚園・学校への周知を行う

（イ）具体的な支援方法を伝えるための書式等を検討する

5．人材育成

（ア）専門職としての意識を高め、誇りを持って仕事に打ち込めるようにする

（イ）今後事業展開をするに当たり、一人一人が個々の役割を理解し、技術を高め成長できる職場環境を作る

（ウ）療育に必要な知識、技術の具体的な学習会を行う

（エ）地域の福祉的な資源や制度の学習会の開催

【経営指標】

	事業名	児童発達支援	放課後デイサービス		相談支援	保育所等訪問
			平日	休日		
利用者	利用定員	30名	20名	20名	－	－
	一日平均利用者数	26名	15名	15名	月平均45件	月20件
	稼働率	86.6%	75.0%	75.0%	－	－
	稼働日数（延べ）	249日	249日	40日	249日	249日
	単価(一人一日当り)	10,952円	5,930円	6,870円	－	－
	ｻｰﾋﾞｽ活動収益(千円)	70,903千円	22,148千円	4,122千円	－	－
職員数	正規職員	1名			3名	1名
	業務職		1名			
	パート・アルバイト	9名	2名			
	計	10名	3名		3名	1名

介護老人福祉施設　松戸愛光園

特別養護老人ホーム松戸愛光園
松戸愛光園ショートステイ
松戸愛光園デイサービス
松戸愛光園ケアプランセンター

2015年松戸愛光園は、運営を充実させていくため、各事業の責任の明確化と組織づくりを行う。事業運営においては、介護報酬改定に応じた算定要件変更に柔軟に対応し、適切な加算算定を行い、地域から求められるサービスの質を更に高めていく。

人材育成・職員教育の強化として、各専門職ラダーを十分に活用していく。介護職にあっては、介護テクニカルラダーに加え、介護プロフェッショナルキャリア段位制度についても取り組みを開始する。また、「千葉県ユニットリーダー研修」の実習受入施設として、2015 年度も千葉県内のユニット型施設職員を受入れ、ユニットケアの在り方について自らの学びの場としたい。さらに認知症対応機能、中重度要介護者対応機能を強化していくため各種研修会に参画していく。喀痰吸引研修についても積極的に受講し、医療行為が必要な入居者のニーズに対応していく。人材確保については大きな課題であり、人事部人事課関東採用センターと連携の上、就職説明会へのリクルーター派遣、学校訪問等の対策を講じていく。

自然災害対策については、松戸ニッセイエデンの園、高塚新田自治会、高塚団地自治会と連携し、施設利用者及び地域に対しての「支援力」、災害に遭った際の「受援力」を高める取り組みを行う。

最後に、社会福祉法人として地域貢献は重要事項である。超高齢化団地等、この地域特有の様々な日常生活上の困難を抱える方達に、先駆的・開拓的取組を開発していきたい。

【施設理念】
『一人ひとりの生命と尊厳を守り、利用者主体の自立生活支援を追求する。』

【経営方針】
1．　あなたらしい生活の継続
2．　あなたと共に歩んできた方々と一緒に
3．　あなたを思いやる気持ちを忘れない
4．　あなたらしい最期の支援
5．　地域の皆さんと共に

【事業・運営計画】

1．安定した経営・運営

（ア） 介護報酬改定に応じた加算算定、職員配置への対応

（イ） サービス区分に応じた各職場長が施設運営に参画し、コスト意識を持ち稼働率を意識した運営

（ウ） 各事業の相談員、ケアマネージャーが連携し、新規利用者・入居者受入れの連携強化

（エ） 利用者の異常早期発見と健康保持の取り組み

（オ） 感染症の予防並びに拡大防止の徹底

（カ） 修繕・備品関係の計画的な運用（主にガスエンジン・ヒートポンプ・エアコン、福祉車両）

2．「最高の質」に対する取り組み（ユニットケアの推進）

（ア） 認知症対応機能、中重度要介護者対応機能を強化（認知症関連研修、喀痰吸引研修への職員派遣）

（イ） ユニットリーダー研修受講の推進

（ウ） サービス自己評価を活かし、ケアの振り返りとサービスの質の向上

（エ） ユニット内・居室内の設え、生活環境の整備の推進（リスク対策含む）

（オ） 看取りケアの更なる充実

（カ） 千葉県ユニットリーダー研修への参画と、千葉県内ユニット型施設の実習生の受入れ

3．人材育成・人材教育と採用

（ア） 目標参画システム、介護テクニカルラダー、相談支援スキルアップラダー、施設在宅看護ラダーの活用

（イ） 介護プロフェッショナルキャリア段位制度評価者（アセッサー）講習受講の推進

（ウ） 新人・中途採用者園内研修の充実、および施設内階層別研修の企画

（エ） 人事部関東採用センターと連携し、職員確保のためのリクルーター派遣の実施

4．住み慣れた地域で暮らしていくために

（ア） 通所介護事業新規スペースを活かし、「活動」・「参加」機能の充実（アクティビティプログラムの多様化）

（イ） 高塚新田自治会、高塚団地自治会、高津団地管理組合、高塚団地友の会（老人会）との交流の推進（防災対策の強化）

（ウ） 松戸地区における中長期構想を見据えた、「聖隷」の連携強化

5．地域への貢献（公益的活動）

（ア） 松戸愛光園チャリティバザーの開催（売上金全額、松戸市社会福祉協議会へ）

（イ） 周辺地域の清掃を年２回、松戸ニッセイエデンの園と共に実施

（ウ） 地域交流ホールの利用、屋上庭園の開放を地域住民に周知し利用を促進

（エ） 松戸市特別養護老人ホーム連絡協議会と連携し、高齢者福祉の増進に参画

【数値指標】

	特養入居	短期入所	通所介護		ケアプランセンター	総計
			一般	予防		
利用者定員	100名	20名	29名			
利用者延べ数	36,051名	5,856名	5,902名	370名	941名	49,120名
一日平均利用者数	98.5名	16.0名	19.1名	1.2名		
稼働率（%）	98.5%	80.0%	70.0%			
稼働日数（延べ）	366日	366日	309日			
単価（一人一日当り）	13,235円	14,216円	10,312円	10,500円	10,591円	
サービス活動収益（千円）	477,118千円	83,247千円	64,748千円		9,967千円	635,080千円
職員数（常勤換算）	72.7名	14.3名	12.5名		2.3名	101.8名

聖隷こども園わかば

2015年4月より子ども・子育て支援新制度が施行され、それに伴い当施設は保育園から幼保連携型認定こども園となりスタートする。新制度は幼児期の教育・保育、地域の子ども・子育て支援を総合的に推進するためのものであり、量の拡充や質の向上が求められている。定員を150人に増やし浜松市の待機児童対応に応えていくとともに、乳幼児期の子どもにとって必要なより質の高い教育・保育が提供できるよう保育士の専門性を高めていかなくてはならないと考える。職員一人ひとりが自己研鑽しながら、責任を持って仕事に取り組めるようにしていくために、本格的に取り組み始める保育士ラダーを有効に活用していきたい。また新採用の職員が増える点では、事業団人材育成方針及び園長主任会による新人研修をもとに進めていきたい。また園内研修・保育学会への取り組み等を充実させ保育実践の中につなげていきたい。わかば保育園として長い歴史の中で築かれてきたキリスト教の精神を基盤とした保育の営みを振り返り、自施設の強みを職員間で共有し、さらに新しい時代の中で求められているものを見極めていきたい。そして「子どもの最善の利益」を守り、乳幼児期の教育・保育を保証していく責任を果たすべく力を注ぎたい。

また、地域における子育て家庭の保護者に対する支援が、こども園の大きな役割である。子育て支援ひろばを中心として、地域における関係機関等との連携を図り、地域の人材を活用し、子どもを育てることの楽しさや成長の喜びを感じられるような支援に努めたい。

【施設理念】　子ども自身に生きさせよ~『自分で考え判断し行動する子ども』~
基本理念をキリスト教におき、集団生活をとおして人への思いやりや優しさを、また恵まれた自然環境の中での様々な経験をとおして逞しい心身の成長を育む。

【経営方針】
1. 入所希望者のニーズに応えることで安定した運営をしていく。
2. 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、子ども一人ひとりの育ちを支える教育・保育を行う。
3. 地域につながる子育て支援をすることにより、地域での存在の意義を深める。

【事業・運営計画】

1. 環境を通して、教育及び保育を行う
   (ア) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、0歳から小学校就学前までの一貫した教育・保育を園児の発達の連続性を考慮して展開していく。乳幼児の理解に基づいた指導計画を作成、実践し、反省・評価をするPDCAサイクルを意識し質の向上を目指す。
   (イ) 乳幼児が色々な発見をすることのできる環境設定や、自ら遊びだすことのできる環境づくり、年齢を超えた子ども同士の関わりが自然にできる環境づくりを進め、発達に即した教育・保育内容の充実をはかる。
2. 異年齢グループによる保育・少人数グループでの保育の実践
   (ア) 幼児クラスでは異年齢グループでの活動、同年齢のクラスによる集団活動をバランス良く行う。乳児クラスでは少人数のグループで保育することにより、一人ひとりの発達に

即したよりきめ細やかな保育を行う。

（イ）個別の関わりを必要とする子どもに対し適切な対応の仕方を学び丁寧に関わる。

3. 業務の質の向上をめざし研修への参加等自己研鑽し、実践する。

（ア）職員一人ひとりが新制度について学び、新しく始まるこども園の理念、目標を理解し教育・保育の実践を行う。

（イ）保育士ラダーを用いて、自己の課題を明確にした上で実践し、評価を行い、改善点を次につなげることを意識して業務の質の向上を図る。

4. 子育て、親育て支援をする。

（ア）園便り・クラス便り・連絡ノート・ドキュメンテーション・ホームページ・掲示板・懇談会等を通して教育・保育内容・子どもの育ちを保護者に分かりやすく発信し、育ちを共有していく。

（イ）子育て支援ひろばの充実をはかり、子育てや子どもの成長に喜びを感じ、親としての成長・より良い親子関係の形成を支援する。出張ひろばを通し地域の子育て力向上に寄与する。

5. 独自の取り組み

（ア）食育の推進　管理栄養士・調理師と連携をとりながら日常の保育の中に食育を意識した活動を取り入れる。保護者にも「食」の大切さを野菜の苗の植え付けやクッキング等の体験をとおして伝える。

（イ）世代間交流　中高生の職場体験の受け入れや、近隣施設の高齢者との交流をはかる。

（ウ）エコ活動　水や電気の節約がどのようにエコにつながるかを考え実行する。
資源の有効活用など、エコ活動の推進を家庭にも発信する。
ごみの分別収集を徹底する。

6. 施設整備　・園庭遊具修理　・幼児ウッドデッキ修理　・屋上給排気機器修理
・厨房内スチームコンベクション修理　・プール日よけ補修

【数値指標】

利用者数	定員	150名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
	児童入所率97.5%	入所数 4/1 現在	9名	22名	26名	27名	28名	26名	138名
		内、障がい児	1名			1名	1名	1名	4名
		年間入所延人数	186名	285名	312名	324名	336名	312名	1,782名
	特別保育	年間利用延人数	延長保育						1,440名
			低年齢児保育						597名
			一時預かり保育						120名
			病後児保育						360名
			地域子育て支援拠点事業						2,500名
職員数（常勤換算）			施設長	保育士	看護師	栄養士	調理師	事務他	計
		正規職員	1名	18.3名	1名				20.3名
		ﾊﾟｰﾄ・ｱﾙﾊﾞｲﾄ		8.8名		0.5名	3.5名	3.1名	15.9名
		計	1名	27.1名	1名	0.5名	3.5名	3.1名	36.2名

聖隷こども園桜ヶ丘

2015年度は子ども子育て支援新制度が施行され、当園も「幼保連携型認定こども園」に移行し、定員は30名増の160名となる。従来の保育園と幼稚園の機能を併せ持つ施設として養護と教育の一体化が図られ、資格や指針、カリキュラム等も見直される。職員個々が新制度やこども園の理解を深め、より一層の資質向上に努めるとともに、増改築から一年が経過したので環境の見直しにも重点を置いていきたい。広く乳幼児はみな公平に保育教育を受ける権利があるという前提のもとに成り立っている制度であるが、乳幼児期に大切にしたいものは何かを見失うことなく、教育的視点を持った活動を展開して園児個々の成長発達を育み、利用者の信頼を得ることに努めたい。地域コミュニティとの連携も継続して行い、地域に愛され、信頼され、貢献できる園作りを目指すとともにこども園として『選ばれる園』となるべく努力していきたい。

【施設理念】

1．子どもたち一人一人が愛され受け入れられて愛することを知る。

2．あそびや体験を通して心身を育て、子どもたち一人一人の個性を伸ばしていく。

【経営方針】

1．職員一人一人がこども園への理解を深め、計画的に保育教諭の資格取得を進める。

2．乳幼児の心身の成長発達を保証するべく、職員の資質向上を目指す。

3．園内外の保護者の育児をサポートして不安や負担感を取り除き、育児力を高める。

4．施設の専門性を生かし、地域コミュニティとの交流を通じて地域貢献を図る。

【事業・運営計画】

1．質の高いサービスを提供する

（ア）施設理念や保育課程を基に、ＰＤＣＡサイクルにのせて園児個々に見合った計画立案、実践を行う

（イ）年間研修計画に沿って施設内外の研修に参加し知識や技術の向上を図り、各自の学びを現場にフィードバックして職場全体のスキルアップへとつなげる

（ウ）落ち着いたきめ細やかな実践を行うことのできる環境を整え、子どもにとって居心地のよい、自己発揮できる空間づくりをする

（エ）保育士ラダーを活用し、個々のスキルアップを図る

2．安定した運営の意識を持つ

（ア）職員一人一人が施設設備を丁寧に扱い、省エネルギーやエコロジーを心がけるなどのコスト意識を持つ

（イ）保育園親子ひろばを通し、地域や子育て家庭のニーズを拾い支援に生かす

（ウ）働きやすい環境を整え、職員の心身の健康維持に努める

3．保育資源の活用および育児支援を行う

（ア）地域の自治会やシニアクラブ、施設と交流を図り、相互理解や連携、信頼関係や共助関係を構築する

（イ）中高生の職場体験やボランティアを積極的に受け入れ、次世代育成に貢献する

（ウ）小学校と連携を図り、教育についての学びや理解を深める

（エ）施設の公共性を生かして地域と関わり、地域の育児力を高める役割を担う

4．食育への取り組み

（ア）野菜栽培やクッキングを通し、旬の味を感じ、食べ物への興味関心へとつなげる

（イ）管理栄養士や調理師・保育士が連携して食育活動を展開し、園児や保護者が食に対する興味を持てるようにする

5．保育環境および施設整備

・うさぎ飼育小屋　・西通路フェンス設置　・衛生棚購入

【数値指標】

利用者数	定員	160名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
	児童入所率97.8%	入所数4/1現在	5名	29名	34名	33名	27名	23名	151名
		障がい児			1名	2名	1名		4名
		年間入所延人数	126名	348名	408名	396名	324名	276名	1,878名
	特別保育	年間利用延人数	延長保育						36名
			障がい児保育						60名
			一時預かり保育						300名
			食物アレルギー児						72名
職員数（常勤換算）			施設長	保育士	看護師	栄養士・調理師		事務他	計
		正規職員	1名	20名					21名
		ﾊﾟｰﾄ・ｱﾙﾊﾞｲﾄ		6名			3.5名	3.7名	13.2名
		計	1名	26名			3.5名	3.7名	34.2名

聖隷こども園ひかりの子

2015年4月より「子ども・子育て支援新制度」が本格スタートする。「量」と「質」の両面から効果的な子ども・子育て支援が求められる。それに伴い、当園も幼保連携型認定こども園として定員も120名から150名となって受け入れの間口を広げスタートする。保育の内容や運営等の関する指針を『幼保連携型認定こども園　教育・保育要領』とし、教育・保育が展開される。このような変換期にこそ職員の『協働』が重要となる。園の理念・目標達成に向けて職員一人ひとりが誇りとやりがいを持ち、それぞれの役割を見出し、連携することが大切である。今ある環境・資源を最大限に活かしながら、保育の工夫や見直しをすることで、変革に適応していく。そして「質」の向上には、人材育成は必要不可欠である。雇用形態問わず職場全体で人を育てる体制を整えていく。

地域ニーズに沿った事業展開・小学校との接続を図る為にも、地域との繋がりを強化し、情報収集と園の情報公開・可視化を行っていく。

【施設理念】

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法、児童憲章、幼保連携型認定こども園　教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づいて、心身ともに豊かな子どもを育てる。

【経営方針】

1. 神に愛され、多くの人から愛されていることを感じ、愛する心を育む。
2. ひとりひとりの違いに気づき、お互いが大切な存在であることを知り、認め合いながら主体的に生活する。
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

【事業・運営計画】

1. 保育の質の向上
   - （ア） 子どもが主体的に遊び込める（集中できる）環境作りと保育内容の見直し（自由遊び・コーナー遊び）
   - （イ） 発達障がい児・発達の気になる子どものケース会議を必要に応じて開き他機関との連携を図り、職員が統合保育の意義についての理解を深める
   - （ウ） 子どものドキュメントビデオ・写真を介してグループディスカッション等を行い、『保育の質』について共通理解をし、保育に活かしていく
   - （エ） 他職種・クラスの枠を超えた職員間の連携を効果的に行うための方法を見出し実践する（園内保育士交換・リーダー会議・パート会議他）
   - （オ） 園内外の自然と調和しながら取り組む食育やエコ活動（畑の収穫物によるクッキング・園庭の緑化・グリーンカーテン他）

2. 保護者支援の充実

（ア） 保護者と子どもの成長を共有し、一人ひとりに応じた保護者支援を行う

（イ） 茶話会（ほのぼの・クラス茶話会等）の実施を通して、保護者間・保護者と職員の交流を密に図り、子育ての孤立化を防ぐ

（ウ） 親子ひろばの役割を明確にし、地域の子育て親子への的確な支援を行う（相談業務・園庭開放・エンジェルリトミック他）

3. 幼保連携型認定こども園として適応する為に今までのものを見直し必要に応じて整える

（ア） 的確な情報収集をし、職員間で共有し、協議する（指針の勉強会・養護と教育について他）

（イ） 既存の施設の中で、環境・保育の工夫を行う

4. 人材育成・自己研鑽を推奨する職場作り

（ア） プリセプターシップで丁寧な新人教育と雇用形態問わず、熟練者が後輩指導に関わる風土を作っていく

（イ） 保育士ラダー・目標参画を活用し、自己の強み弱みを知り、具体的な課題に向けて職員一人ひとりが研修計画を立て、取り組んでいく

（ウ） 園内研修の充実（園の強みについて・研修報告の工夫他）

5. 地域社会のニーズに対応できる支援や連携の充実

（ア） 長上地区子育て連絡会・民生児童委員・社会協議会等との連携を密に図り、情報収集や共有を行う

（イ） 小学校（与進小）・幼稚園（与進幼稚園）と交流・連携を通して幼児期の保育と小学校との教育上の接続を図る

（ウ） 地域の方との世代間交流（老人会・畑を世話人・小中高校生の保育体験他）を行う

【数値目標】

利用者数	定員	150名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
	児童入所率117.0%	入所数4/1現在	8名	23名	26名	28名	26名	26名	137名
		内、障がい児				1名			1名
		年間入所延人数	201名	308名	324名	336名	300名	324名	1,793名
	特別保育	年間利用延人数	延長保育						1,200名
			障がい児保育						480名
			一時預かり保育						200名
			食物アレルギー児						1,400名
			保育園親子ひろば						1,400名
職員数（常勤換算）			施設長	保育士	看護師	栄養士	調理師	事務他	計
		正規職員	1名	14名			1名		16名
		パート・アルバイト		13.3名				4.1名	17.4名
		計	1名	27.3名			1名	4.1名	33.4名

こうのとり保育園

国は、子ども・子育て支援新制度を2015年4月から施行すると共に、保育園や放課後児童クラブの待機児童の解消また、保育等において質の改善を図るとの政権公約を掲げている。社会状況をみて、消費税の引き上げは1年半延期され、2017年4月からとなったが、社会保障が充実していく一年であるようにと願う。今年度も保育を養護と教育の両面から捉え、保育の質の向上をめざし、保育士の資質を高め、多職種及び他機関と連携して進みたい。また、人材確保のためには処遇改善も大きな課題のひとつであると考える。保育園として、安心して妊娠・出産・子育てができる支援体制を強化し、在園の保護者のみでなく地域に向けても発信していく。

【施設理念】

『隣人を自分のように愛しなさい』マタイ福音書22:39

『わたしがあなたがたを愛したように,あなたがたも互いに愛し合いなさい』ﾖﾊﾈ福音書13:34

【経営方針】

1．神に愛され、多くの人から愛されていることを感じ、愛する心を育む。

2．ひとりひとりの違いに気づき、お互いが大切な存在であることを知り、認め合いながら主体的に生活する。

3．自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。

4．在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

【事業・運営計画】

1．保育の質の向上（保育理念、保育目標の理解と実践及び実践課題に基づいた研究）

子どもの成長発達に合わせた保育、子どもの最善の利益を考えた保育を常に心がける。

ひとりの子どもの成長発達に合わせて計画、実践、評価、見直し（ＰＤＣＡ）を行う。

更に、保育の実践課題に基づいた研究を重ね、保育学会につなげる。

（ア）統合保育の実践

① こひつじ保育と在園クラスで相互に連携し、子どもの姿を保育士間で共有化し、計画的に交流する。児童発達支援事業所「かるみあ」の子どもたちとも交流の機会をもつ

② 障がいについての理解を深めるため、「はあと」の職員に会議への参加を依頼し、子どもの理解を深める。それを活かし、専門的観点から個別或いは集団における保育（療育）を実践し、職員全体で共有化する。また、内外の研修に積極的に参加する

（イ）歳児別・異年齢クラスの中でも、少人数に分けて保育する

① 新しい職員にも理解できるように、異年齢保育や少人数に分けて保育を行う意義や目的そして効果について、具体的場面を通して伝え合い、再確認する

② ひとりひとりの成長に合わせて、発育を促すための乳幼児期の運動あそびに着目し、計画的に実践する

③ 乳幼児期の教育と学びについて考え合い、具体的な保育実践から可視化し、言語化・

文章化し、子どもへの関わりを職員同士で学び合う機会を持つ

(ウ)子育て親育ての地域支援活動や保育園としての地域交流を継続的に行う。子育て家庭のみでなく、多世代の方たちが子育てに興味や関心を持てるようにすることを大きな目標として、地域支援活動を行い、中・高校生との交流も積極的に計画する

2.利用者(保護者)と子どもを中心にした子育てをしていく

(ア) 乳児期からの子どもの学びの視点を可視化し、保護者にも伝える機会を持つ

(イ) 親育てを基本にした子育て支援を行う　－子どもの生活リズムを整える－

2015年度は〝快動〟を学びのテーマとし、子どもの成長発達を運動遊びに着目して講演会を企画する。保育園と保護者が共に、子どもの健やかな成長発達を促すための運動遊びをどのように取り入れていくかを学び、実践する

3.職員のモチベーションを高め、職員の資質向上を図り、働きやすい職場環境を目指す

人材育成ツールとしての保育士キャリアラダーを活用し、保育の質の向上を図る。そして、保育学会を目標にチームで仕事をすることの喜びを味わい、専門職としての意識を高め、誇りを持って仕事に打ち込むことができるようにしていく

(ア)　“何をもって保育の質の向上にあたるのか”を考え、具体的な研修計画を立てる

(イ)　2015年度も保育園新人職員研修会を実施する。2014年度より試行活用している保育士キャリアラダーを2015年度も人材育成ツールとして活用していく

(ウ)　業務の省力化と職員間で情報の共有化を図る→「のびのび」との連携

(エ)　有給休暇、超過勤務等は業務と合わせて、計画的にバランスよく行う

(オ)　パート会議を継続し、応答的対話の中でパート職員の資質向上を図る

【数値指標】

<table>
<tr><td rowspan="12">利用者数</td><td>定員</td><td>120名</td><td>0歳児</td><td>1歳児</td><td>2歳児</td><td>3歳児</td><td>4歳児</td><td>5歳児</td><td>計</td></tr>
<tr><td rowspan="3">年間児童入所率121.5%</td><td>入所数4/1現在</td><td>4名</td><td>27名</td><td>26名</td><td>27名</td><td>25名</td><td>28名</td><td>137名</td></tr>
<tr><td>内、障がい児</td><td></td><td>3名</td><td></td><td>3名</td><td></td><td>1名</td><td>7名</td></tr>
<tr><td>年間入所延人数</td><td>154名</td><td>324名</td><td>312名</td><td>324名</td><td>300名</td><td>336名</td><td>1,750名</td></tr>
<tr><td rowspan="8">特別保育</td><td rowspan="8">年間利用延人数</td><td colspan="6">延長保育</td><td>1,500名</td></tr>
<tr><td colspan="6">障がい児保育</td><td>1,500名</td></tr>
<tr><td colspan="6">一時預かり保育</td><td>1,300名</td></tr>
<tr><td colspan="6">休日保育</td><td>100名</td></tr>
<tr><td colspan="6">病後児保育</td><td>30名</td></tr>
<tr><td colspan="6">食物アレルギー児</td><td>1,900名</td></tr>
<tr><td colspan="6">学童保育</td><td>900名</td></tr>
<tr><td colspan="6">地域子育て拠点事業</td><td>3,000名</td></tr>
<tr><td rowspan="4">職員数(常勤換算)</td><td></td><td>施設長</td><td>保育士</td><td>看護師</td><td>栄養士・調理師</td><td></td><td>事務他</td><td>計</td></tr>
<tr><td>正規職員</td><td>1名</td><td>14.7名</td><td>1名</td><td></td><td>2名</td><td></td><td>18.7名</td></tr>
<tr><td>パート・アルバイト</td><td></td><td>17.9名</td><td></td><td></td><td></td><td>7名</td><td>24.9名</td></tr>
<tr><td>計</td><td>1名</td><td>32.6名</td><td>1名</td><td></td><td>2名</td><td>7名</td><td>43.6名</td></tr>
</table>

磐田市子育て支援総合センター「のびのび」

近年、地域の大人や子ども達同士の関わりが減り、子育て家庭の孤立化が加速している。特に磐田市は製造業が多い現状のため、他県からの転居が多く核家族で子育てをしている家庭が多い。母親の孤独感と子育て不安を解消していくためには、気軽に相談できる人が身近にいる環境づくりの構築を目指していく事が課題と感じ、2014年から『であいのひろば事業』を受託して地域の人々から信頼を得て、繋がりも深まりつつある。今まで以上に子育て支援の輪を広げながらネットワークづくりの実践に向けて努力していきたい。

【施設理念】

子育てをしている家族とその子どもの心身の成長発達のための総合的な支援を通し、生まれてくる子どもの命の尊さ、子どもを産み育てることへの親としての責任、義務、そして子育ての喜びを伝える。又、子育てが親育てになるようここに関わるすべての人が成長できること。

【事業・運営計画】

1．子育て支援総合センターの活性化

（ア）子育て中の親子の交流、つどいの場の提供及び子育て関連の情報提供を積極的に図る

（イ）育児不安の相談業務を積極的に実施する

①個別相談、来館時、電話、メール、FAX、フリースペースでの日常的な相談

②相談内容を整理し、子育て中に発生する悩みについて体系的に把握する

（ウ）子育てボランテイアの育成・次世代のボランテイアの育成を図る

（エ）行事・子育て講座の新たな企画、運営の活性化を図る

（オ）ピポパ等発達が気になる子どもへのグループ療育を実施する

（カ）日常の触れ合い・イベント等を通し、父親&祖父母支援を図る

以上、市内支援センター・はあと・保健師と合同での企画&支援活動を行う

2．ファミリー・サポート・センター事務局としての役割強化

（ア） 援助、依頼会員の募集、登録。幅広く利用されるよう広報活動を推進する

（イ） 会員の講習会、交流会で支援員の質の向上、支援内容の情報交換を行う

（ウ） 必要に応じて他機関との連携の充実を図る

3．出前子育て支援センター『であいのひろば』の活性化

（ア） 地域へ出向き子育て中の親子に遊びの場を提供すると共に子育ての楽しさを知らせる

（イ）多世代交流を目的につどいの場の提供及び子育て関連の情報提供を図る

4．乳幼児一時預かり保育における柔軟対応

（ア） 利用者のニーズによって、時間外・時間延長の要望に応える

【数値指標】

	一般利用者数	ファミサポ利用者数	一時保育利用者数	であいの広場利用者数
登録者	17,600名	860名	150名	550名
年間利用	25,000名	2,900名	400名	1,800名
一日平均	81名	8名	2名	47名
稼働日数	306日	347日	353日	43回

こうのとり東保育園

こうのとり東保育園
放課後児童クラブ　オリーブ

2014年12月末より新園舎での生活がスタートし、2015年度からは、定員が90名から200名に、放課後児童クラブ“オリーブ”も19名から40名に増員する。定員に近づけるための対策として、待機児童が多い乳児クラスの人数受け入れに重きを置き、3年後には200名に到達することを目標としている。幸いに4月当初の乳児クラスの人数はほぼ定員に近づけたのでこのまま幼児に繋げていきたい。そのためには、保育の質を向上させることを第一に考えたい。特に新人が6名増えるということで、人材育成にも力を入れていきたい。また地域の中での保育園として認めて頂くために、新園舎の環境をフルに活かし、様々な支援活動に力を注いでいきたい。

保育については、変わるべきもの変わってはいけないものを見極め、子どもの最善の利益を考慮し、その上で国の制度の動向を意識しながら、磐田地区の2015年度からの体制を考えていきたい。

【施設理念】

『隣人を自分のように愛しなさい』　　マタイによる福音書22:39

【経営方針】

1．一人ひとりが愛される経験を通して愛する心を知り、互いが大切な存在であることを認めながら生活する環境を作る。
2．発達をおさえた生活、あそび等の活動を通し、一人ひとりの創造性や意欲を育てる。
3．地域のお年寄り、子育てサークル、多文化交流センター、国際交流協会との繋がりの中で、豊かな人間関係を創り、子育て支援を充実させる。

【事業・運営計画】

1．　保育の質の向上

（ア）　保育者が保育理念と保育目標を理解し「一人ひとりを大切にする保育」を具体的に実践していく

①　子どもの最善の利益に視点をおいた保育内容になるように、事例検討の中から具体的な課題を見い出せるような園内研修を行っていくことで職員の資質向上を図る

②　保育学会、園内外の人材育成研修等に積極的に企画、参加することで、日常の保育の質の向上に繋げていく

（イ）　保護者支援の実践

①　おたより、クラス便りで子どもの成長を具体的に伝える。また懇談会、講演会、座談会を通し子育ての悩みの共有化と啓蒙をする

②　パート職員も含め、研修会参加を推進していく

③　地域への施設開放を行いながら、保育士・看護師・栄養士等の専門性を生かした園内外の支援を展開していく

④　保育を展開する中で、保護者に目的が明確に伝わるようにドキュメンテーションの掲示、保育参加、ビデオ視聴、発表会等の充実を図り、保育園と家庭との共育てに繋げていく

2．　統合保育・他機関との連携

①　保護者・保育者と共に障がい児の受け入れを行う目的の共有化を図る

②　他機関との連携を取りながら、その子の保育園での関わり方を模索していく

③　虐待の危険が疑われる家庭や精神障害のある保護者の問題については、園と専門機関が連携し、精神的な援助をしながら子どもの安全・情緒を守っていく

3．　多文化共生推進

①　多文化共生推進協議会参加により他機関との情報交換と連携を行う

②　保育の質を上げるため、外国人園児が多いクラスについては、通訳の職員に保育計画作成のもと、日本語が学べる時間を設ける

③　日本とブラジルの文化を紹介しあう場（夏まつり、バザー、楽しい集い、にこにこクッキング）を設けることで、お互いの理解、コミュニケーションに繋げる

④　園内外の外国人対象に、国際交流協会との連携によるグローバル子育て教室の実施を継続していく

4．　食育の推進と環境

①　栄養士・調理師・保育士が連携をとりながら、野菜づくりや親子クッキング等の活動を通し、子ども達や保護者の食への関心を膨らませていく

②　畑活動を通し種（苗）から成長を見ることと収穫した新鮮な野菜のおいしさを体験することで感謝の気持ちに繋げる

5　主な施設整備

幼児用プール設備

【数値指標】

利用者数	定員	90名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
	児童入所率73.8%	入所数 4/1 現在	13名	22名	27名	26名	22名	23名	133名
		障がい児				1名	2名	2名	5名
		外国人	3名	6名	11名	5名	10名	6名	41名
		年間入所延人数	206名	296名	333名	336名	288名	312名	1,771名
	特別保育	年間利用延人数	延長保育						1,920名
			乳幼児保育						629名
			一時保育						240名
			病後児保育						80名
			放課後児童クラブ						240名
			食物アレルギー児						60名
			外国人保育						480名
職員数			施設長	保育士	看護師	栄養士・調理師		事務他	計
		正規職員	1名	17名					18名
		ﾊﾟｰﾄ・ｱﾙﾊﾞｲﾄ		10.8名	1名		3.5名	3.5名	18.8名
		計	1名	27.8名	1名		3.5名	3.5名	36.8名

こうのとり豊田保育園

2014年度は定員120名に対し、117%の入所率であった。2015年度は磐田市において保育園の新設や定員増があるものの依然として待機児童数は多い。そのため2015年度も積極的に待機児童の受け入れを考えている。４月からの在籍児童数は139名でスタートし、途中入所は0.1歳児のみであるが、124.9%の入所率での計画である。

2015年度から「子ども・子育て支援新制度」が施行される。制度の理解やしくみ等を職員間で共有し、特に2016年度からの認定こども園への移行を念頭に置き、こうのとり豊田保育園が地域の中で必要とされ、それに応えられるように学びを深めていきたい。また、移行にあたっての具体的な取り組みの体制作りを進めていきたい。

同時に人財の確保も大きな課題である。学生ボランティアや保育実習生の受け入れを今まで以上に積極的に行い、保育の楽しさや充実感を保育士を志す学生に具体的に伝えていきたい。また、実習生を受け入れることで保育士自身が自分の保育を振り返り自己啓発のきっかけとしたい。

職員構成をみると経験の浅い職員が比較的多いが、保育士ラダーや主任会の企画する初任者研修、目標参画システムに則って、保育士個々人のモチベーションや保育のスキルを向上させることで園全体の保育の質の向上をめざしたい。

また、園内研修や保育実践を通して互いに保育の専門性を高め合い、常に『子どもの最善の利益』を求める職員集団となるよう、努めていきたい。

【施設理念】

キリスト教を基本理念とし

・「隣人を自分のように愛しなさい」…マタイによる福音書22:39

・「わたしがあなた方を愛したように、あなた方も互いに愛し合いなさい」

…ヨハネによる福音書13:34

【経営方針】

1．神に愛され、多くの人から愛されていることを感じ、愛する心を育む。

2．ひとりひとりの違いに気づき、お互いが大切な存在であることを知り認め合い、主体的に生活をする。

3．自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。

4．在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

【事業・運営計画】

1．待機児童解消のために入園受け入れを積極的に行う

（ア）園庭開放を行う

地域の子育て家庭に対して、こうのとり豊田保育園を知るきっかけとなるよう園庭開放を行い、園の様子や雰囲気を伝え入園につなげていく

2．保育の質、専門性を高める

（ア）小グループでの保育形態を構築していく

子どもに負担がかからないように、また保護者が安心して預けられるように、歳児別保育をベースにしながら小グループに分けて保育を行う

（イ）ドキュメンテーションの作成を積極的に試みる

ドキュメンテーションを作成することで、子どもの発達（学び）を可視化し、職員、保護者、子どもが共有し、多角的に子どもを知り、子ども理解を深める

（ウ）コミュニケーションを大切に、ふれあい遊びの取り組みを通して、保育の幅を広げる

①子どもの遊びの中から意識的に教育的な要素を拾い上げ、保育活動の中に取り入れ、より幅のある保育が展開できるようにする

②素話や絵本の読み聞かせを継続して行ない、保育士と子どもとの心のふれあいを通して保育士としての心の育ちを体験する

3．人材育成を共有化する

（ア）保育士ラダーに基づいて、それぞれの職員のあるべき姿を共有、確認し自己評価する

（イ）保育を語り合う場として園内研修を定期的に行い、保育理念や専門性に基づいた保育について共有化を図る

4．地域交流を深める

（ア）主に地域のふれあいクラブの方たちとの交流を密にし、在園祖父母の方たちも含めた交流を行う

5．制度の改革、新たなニーズに対応できる体制作りを行なう

（ア）確かな情報収集をし、職員間で共有する

（イ）学童保育を継続し、学習する習慣を身に着ける

（ウ）新たに、園庭開放や障がい児一時保育等の子育て支援の取り組み実施

【数値指標】

利用者数	定員	120名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
	児童入所率124.9%	入所数4/1現在	4名	24名	30名	30名	27名	24名	139名
		内、障がい児							
		内、外国人							
		年間入所延人数	102名	300名	360名	360名	324名	288名	1,799名
	特別保育	年間利用延人数	延長保育						1,000名
			乳幼児保育						762名
			一時預かり保育						500名
			食物アレルギー児						1,440名
職員数（常勤換算）			施設長	保育士	栄養士・調理師		事務他	障雇用	計
		正規職員	1名	13名					14名
		ﾊﾟｰﾄ・ｱﾙﾊﾞｲﾄ		11.2名	1名	2.7名	3.8名	0.5名	19.2名
		計	1名	24.2名	1名	2.7名	3.8名	0.5名	33.2名

聖隷浜松病院ひばり保育園

新園舎に移転して2年が経過し、利用者数の増加と年齢幅の広がりは保育園内に活気をもたらしている。一方、保護者の勤務形態によっては長時間の保育や休日保育の需要も多くなっている。

2015年度より子育て支援新制度の施行に伴い、地域型保育事業（事業所内保育）として一般の方の利用が開始される。これまで以上に教育的な視点を意識した保育を実施し、保護者の求めているものは何かを把握しながら保育にあたっていかなければならない。そして、これまで培ってきた、多様な働き方をしている保護者への支援と、子どもの思いを大切にした保育を展開していきたい。

【施設理念】
- 子どもが大人から愛されて育つ中で、他者を愛する心を知る。
- 安心できる環境の中で、基本的生活習慣とともに社会性を身につける。
- 年齢・月齢に合った遊びを実践し、子どもの成長発達を援助する。

【経営方針】
- 聖隷浜松病院のニーズに応えながらも保育の質を落とさない運営をしていく。
- 地域一般からの利用者に対しても柔軟に対応し、利用者の声を取り入れた保育が展開していけるよう弾力的な運営を図る。
- デイサービスセンター住吉と連携を取り合い、互いにプラスとなる交流を図る。

【事業・運営計画】

1．遊びが自由に展開でき、個々の興味・関心を引き出せる環境づくり

（ア）保育所保育指針に基づいて教育的配慮を意識した年齢別カリキュラムを作成し、個別指導計画のもとに保育し、評価をしていく

（イ）乳幼児が自ら遊びだすことのできる環境づくりをすると共に、発達に即した生活経験の場の提供に繋げる

（ウ）専門的指導を受ける体操教室や英会話教室等を導入することにより経験の幅を広げる

2．少人数グループによる保育・異年齢交流の実践

少人数単位で保育をすることによって細やかな保育を提供し、異年齢の子どもや高齢者との関わりを通して人に対する思いやりの気持ちを育む

3．質の高い保育の提供

保育・教育実践についての研鑽を深め、保育士ラダーを活用してスキルアップを図る

【数値指標】

		0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
従業員枠	入所数 4/1 現在	2名	23名	21名	21名	14名	5名	86名
定員100名	年間延人数	36名	306名	252名	252名	168名	60名	1,074名
地域枠	入所数 4/1 現在	1名	1名	2名	-	-	-	4名
定員20名	年間延人数	12名	12名	24名	-	-	-	48名
職員数（常勤換算）		施設長	保育士	看護師	保育助手	栄養士	用務	計
	正規職員	1名	12名		1名			14名
	ﾊﾟｰﾄ・ｱﾙﾊﾞｲﾄ		1.4名	0.7名	2.1名	(1)名	0.6名	4.8名
	計	1名	13.4名	0.7名	3.1名	(1)名	0.6名	18.8名

聖隷めぐみ保育園

2015年4月より子ども子育て支援新制度が施行されることに伴い、和合せいれいの里に事業所内事業として0、1、2歳児対象、定員19名の小規模保育所「聖隷めぐみ保育園」を開設することとなった。和合せいれいの里および浜松市リハビリテーション病院の職員の就労・育児支援を行うとともに地域枠も5名設定し、地域の方の就労・育児支援も併せて行うこととなる。新設であるので、まずは利用者が安心して預けられ、信頼が得られるよう保育内容の充実を図り、事業所内保育所としての位置づけを作っていきたい。そして利用者の状況やニーズの把握に努め、少しでも寄り添う事ができるよう努めていきたい。

【施設理念】
1．子どもたち一人一人が愛され、受け入れられて、愛することを知る。
2．あそびや体験を通し興味や好奇心を引き出し、主体性を育てる。
【経営方針】
1．子どもたちをまるごと受けとめ、自尊感情が育まれる保育を行う
2．様々な個性を持つ子が共に生活する中、自分と他者との違いに気づきお互いを認め合う
3．養護の中にも子どもの‘学び’に視点を置き、自己発揮し主体的に生活できる環境を整える
4．保護者の状況を把握し、気持ちに寄り添い、育児を支えていくとともに親育てを図る
【事業・運営計画】
1．利用者に質の高い保育サービスを提供する
（ア）施設理念や経営方針を理解し、園児個々の発達に合った実践をＰＤＣＡに沿って行う
（イ）施設内外の研修に参加し知識や技術の向上を図り、現場で活用する
（ウ）きめ細やかな保育実践を行い、子どもにとって居心地のよい環境を整える
（エ）職員が働きやすい環境を整え、心身の健康維持に努める
2．事業の成長、発展のための見通しを立てる
（ア）保護者の理解を深め、ニーズを探る
（イ）他施設見学などを積極的に行い保育室の環境整備に努める
（ウ）保育内容を可視化し、保護者に伝える工夫をする
【数値指標】

		0歳児	1歳児	2歳児	計
従業員枠	入所数 4/1 現在	2名	1名	0名	3名
定員14名	年間延人数	24名	21名	0名	45名
地域枠	入所数 4/1 現在	1名	2名	2名	5名
定員5名	年間延人数	12名	24名	24名	60名
職員数（常勤換算）		施設長	保育士	栄養士	計
	正規職員	1名	3名		4名
	ﾊﾟｰﾄ・ｱﾙﾊﾞｲﾄ		2名	(1)名	2名
	計	1名	5名	(1)名	6名